

ちば里山新聞

(第 52 号)
 編集発行 NPO 法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148
 ☎ 0438-62-8895
 題 字 倉島 貴浩
 (ワークホーム里山の仲間たち)

ちば里山新聞は千葉県からの事業委託を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています

持続可能な社会の実現に向けて

エコプロダクツ 2017 に出展

エコプロダクツ 2017 が 2017 年 12 月 7 日から 9 日の 3 日間、東京ビッグサイト (東京・有明) で開催され、ちば里山センターが参加しました。主催は (一社) 産業環境管理協会、日本経済新聞社。

森からはじまるエコライフ

ちば里山センターのブースは「森林からはじまるエコライフ展 2017」。里山活動団体の情報共有を図るネットワーク構築などをパネル展示したほか、里山に関心のある個人や里山活動団体、企業等からの問い合わせや相談などに対応しました。また、スタンプラリーに松かさで作る「ミニツリーキット」を提供し、運営に協力しました。



木の実のプレスレットづくり「糸を通すのが難しいー」

木の实クラフト、名当てクイズに挑戦

さらに、体験・チャレンジコーナーでは、「木の実のプレスレット」「星型リース」「どんぐりストラップ」「ドングリ図鑑づくり」「小鳥のカービング」のほか、葉っぱや木の実の「名当てクイズ」「クラフト工芸品コーナー」など、盛りだくさんのメニューが用意され、それぞれ参加者で賑わいました。

今年のエコプロダクツでは、セルロースナノファイバーの様々な分野での活用例を示した「第 2 回ナノセルロース展」、SDGs (サステナブル・ディベロップメント・ゴールズ (=持続可能な開発目標) の国際認証を受けた製品による「お茶の間に SDGs」、あるいは水素エネルギーの実装に向けた企業・自治体

等の取り組みを紹介した「水素活用社会」などが特に目を引いていました。総来場者数は 16 万人 (前年度比 4%減=主催者発表)。



スタンプラリー景品のミニツリーキット



「ドングリ図鑑」製作中



星型リースづくり「できたぞー」

森林研と木材市場で研修

ちば里山カレッジ第 3 回フォローアップ研修

平成 29 年 11 月 25 日 (土)、山武市の千葉県農林総合研究センター森林研究所および東金市の千葉県木材市場協同組合で行われたフォローアップ研修には、県内 8 市から 22 名の参加がありました。

午前中は森林研究所福島所長の「山武林業とサンプスギ」と題した講義があり、17 世紀から続く山武林業について、さし木による平地林での混農、降水量の少なさに対応したマツ・スギ二段林などの歴史に触れ、戦後は形質の良いさし木品種が選抜され大面積に植えられたが、非赤枯れ性溝腐れ病が蔓延しその再生が急がれていることなどのレクチャーがありました。

その後構内で、スギ品種のクローン見本林、コンテナ苗の現状、外国産樹種など幅広く見学し、受講生からは関連する話題も含めて熱心な質問があり、予定時間を大幅に超過する見学となりました。

午後からは千葉県木材市場協働組合に移動し、小安常務理事から木材市場に持ち込まれた丸太が太さ別に選別され、取引しやすい本数に「はい積み」され、せりかけられる仕組みや、針葉樹ではスギ、ヒノキ、サワラ、広葉樹ではケヤキ、クス、スダジイ等、10 種を超える材が入荷しており、その用途・見分け方などについて判りやすい説明がありました。

また製材品市場では、天然乾燥と人工乾燥の違い、製材品の評価、単価などについてユーザー視点、出品者視点の両面から解説があり、最後に木と住まいの情報館「モクイチ」を見学し、盛りだくさんの研修を終えました。



各産地ごとのスギを集めた見本林



木材市場に運びこまれた丸太

「里山について学びたいー」地元の皆さんようこそ



手触りや匂いなど五感を働かせて…里山を味わう

袖ヶ浦地域の住民団体「元気か〜い」の皆さんが「里山について学びたい」と H29 年 12 月 1 日午後、ちば里山センターのある「緑化推進拠点施設」を訪れました。一行は、研修室でこの施設の設置



「ここは海の上つくれた里山です。」

目的や造成された経緯などについて講義 (写真⑥) を受けたあと、構内につくられたセラピーロードを歩きました (写真⑦)。

虫害対策や枝打ちなど

里山巡回相談報告

NPO ちば森づくりの会 平島知彦

去る 1 月 13 日に森林研究所福島所長他 3 名の来訪があり、巡回指導を受けました。

■2015 年植栽地(斜面上部ヒノキ、下部スギ・ケヤキ混植林)

ケヤキについてはほぼ全ての木にクワカミキリの産卵痕・食害がみられることから、春からケヤキの各樹木の虫害の状況を調べ、可能な限り殺虫などの対策をとること。枝下高を高くしながらも樹勢を落とさないように気をつけながら枝打ちをおこなうなど丁寧な管理が必要、との指導を受けました。(写真⑤)



スギは生長がよくすでに枝打ちをしても良いほどの太さになっていることから、隣接するケヤキを被圧しないように個別に枝打ちを行い、ケヤキとスギの生長具合をみていくのが良いのではないかと指摘がありました。

■2014 年植栽のクヌギ、コナラ、サクラ林

サクラが大きくなっており、今後景観上から良い広葉樹林になると思われるとのこと。また、将来クヌギ、コナラの萌芽更新の施業を期待したい旨指摘がありました。

■2018 年 クヌギ、コナラ等を植栽予定地

林内作業車、パワーウィンチを使っでの整備状況を観察。チップ業者に出せず処分に困る低級材の処理について相談をしました。

巡回指導中には、真っ黒なアブラムシ、モズのはやにえ(トカゲ、カエル等)、シロスジカミキリの越冬中成虫なども見る事ができ、楽しい時間でもありました。

服装・装備を確認しよう **安全コラム⑥**

作業時の服装も大切な基本です。長袖・長ズボン、ヘルメット、手袋(手甲)、しっかりした足回り(安全靴)…。そして作業によっては、ゴーグル、イヤーマフでガードするほか、チャップスや安全ベルトで保護する必要があります。

たとえばスズメバチ対応にも服装が大事です。天敵の熊を想像させる黒色を避けるのはもちろんですが、何しろ皮膚をむき出しにしないこと、ちょっとした隙間が狙われるので、腕カバーなどきめ細かく配慮しましょう。肌の保護は、転倒やツタウルシ対策等にも有効です。

また、先日の講習会で、チェーンソーが停止する直前に触れた防護服の破損事例があったのですが、チャップスは大きな怪我や事故から守ってくれる貴重な装備です。忘れずに活用しましょう。



~~~~~  
里山巡回相談の申し込みを受け付けています。ご希望の団体は、ちば里山センター事務局までご連絡下さい。  
~~~~~

刈払い機安全衛生教育講習会

- ◆日時：H30 年 3 月 18 日(日)
- ◆会場：里山むつみ隊活動地(八千代市)
- ◆参加費：10,600 円
- ◆持ち物：刈払機及び工具・燃料(お持ちの方)、ウエス(清掃用)、ヘルメット、筆記用具、弁当
- ◆申込み方法：指定の申込み書に写真(30 mm X 24 mm)を貼付し、ちば里山センターに送付ください。
- ◆締切：3 月 5 日(月)
- ◆問い合わせ先：ちば里山センター
☎0438-62-8895(9:00~17:00)

*なお、次回安全講習は 5 月 20 日(日)を予定しています。

セラピーロードの秋を楽しみました

安馬谷里山研究会からの報告

前理事の横山武さん(安馬谷里山研究会)から、「里山活動報告」が届きましたので紹介します。

* * *

H29年11月25日、セラピーの里山を巡る「里山ハイキング」が行われました。このコースは、「森林セラピーソサエティ・ステアリングコミッティ」から、セラピーロードとして県内では初めて認定を受けたもので、今回は約4.5kmのコースを一周



車座になって昼食

しました。主催は南房総市観光協会。安馬谷里山研究会が協力して実施しているもので、今回で43回目。およそ30名の参加者は、モミジが色づき十月桜が咲く中、森の力に心と体を癒してもらいながら散策を楽しみました。



手作り簡易ストーブ

今回のもうひとつの目玉は「里山で食べるラーメン」です。これは、東日本大震災の時の事例に学び、パール缶で作った手

製の簡易ストーブでお湯を沸かしカップラーメンを食べることを通じて、昼食を楽しむとともに災害への備えを体験しようとするものです。皆さんも試してみませんか。

~~~~~投稿歓迎~~~~~

会員の皆さんからの里山情報をお寄せください。特に、整備している里山の特徴や運営上の工夫など“さとやま自慢”を歓迎します。情報を共有し活用し合えればと考えます。

「団体名」「代表者名」「連絡先」および活動の概要や会の特徴等について、500字以内及び写真一枚を添えてお送りください。宛先：ちば里山センター事務局

.....

### 編集後記

◇昨年は里山カレッジフォローアップ、安全講習などで県内の里山団体を訪れる機会に恵まれ、数年前にお目にかかった方の元気な姿に再会し、多くの皆さんと知り合うことができました。◇鬱蒼とした竹藪、斜面を這い上がっている常緑樹を目の前に、どこから手を付けるか悩んでいるのではないかと話しかけると、「あせることはない、一つひとつゆっくり」と語る笑顔に、ふつふつとした意欲が感じられました。◇ことし一年が皆さんにとって良い年でありますように祈ります。

## 里山の風にゆられて ⑧



マユミ<真弓> ニシキギ科ニシキギ属

昨年はマユミの当たり年だったのか、たわわに実ったマユミの実が多く見られた。1月になっても彩を失っていないのは驚きである。マユミの仲間にはニシキギ、コマユミ、ツリバナ、マサキなどがあるがマユミがもっとも里山らしいかと思う。

(写真・文 赤松義雄 H30.1.4 袖ヶ浦市椎の森で)

### 入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896 (平日9:00~17:00)

E-mail [info@chiba-satoyama.net](mailto:info@chiba-satoyama.net) HP <http://www.chiba-satoyama.net/>